

Vol. 99

編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (一財)千葉県環境財団事務局
 環境活動支援課
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969



だより

— つながれ ひろがれ —

エコメッセ2014in ちば開催報告

エコメッセちば実行委員会 委員長 桑波田和子

9月23日開催の「エコメッセ2014in ちば」は、多くの親子の姿が会場にあふれ、子どもから大人まで12,000人のご来場があり、盛況に終了いたしました。

環境パートナーシップちばの会員の皆さまもご出展、ご来場をいただきありがとうございます。

「エコメッセちば」は、今年で19回目でした。19年間継続開催には、「持続可能な社会を実現」したいとの熱い思いを持ち、多くのつながりと支援、信頼を築いてこられたと改めて思いました。当会は実行委員長、事務局として実行委員会の取りまとめ、他の主体との渉外、出展のまとめなど担っています。また、当会の会員の方々のお力をいただき開催されてきています。

「エコメッセ2014in ちば」の特徴は、子ども、親子の若い世代向けを主として企画しました。

テーマは、「イマを知ろう！ミライをつくろう子ども博覧会」でした。エコメッセに来て、子どもの視点で環境を捉え、体験し、行動し、自ら未来を作るような気づきを促すために、「楽しく学ぼう、

子ども環境教室～冒険の館～」「こども環境会議ちば（こどもエコクラブ）」「エコなおもちゃで遊ぼう！」など、子どもが参加しやすいブースができました。また、大学や企業、市民団体など訪れる子ども達（親子も）に、丁寧に対応している団体の姿が印象的でした。

他にも、里山、水、エネルギー、ゴミ、環境学習、福祉団体の環境活動など多くの体験と学びがありました。また、多くの交流が行われ、「環境協働創造市」としても今後の広がりを期待したいと思います。

来年は20回となり、大きな節目の年になります。平成27年9月23日（祝）に幕張メッセで開催の予定です。

またお会いできることを楽しみにしております。



こども環境会議ちば～こどもたちで未来を考えよう！！～

これまでの「こども環境会議ちば」は、千葉県内のこどもエコクラブの皆さんが1年間の成果を発表する場として冬に行っていましたが、今年は9月23日（火・祝）千葉県最大の環境フェア「エコメッセ2014in ちば」で同時開催しました。

「エコ体験と交流の場」として、これまでこどもエコクラブに所属している子どもたちだけでなく、活動に興味のある人たちも広く参加できるようにした結果、100名もの応募をいただき、実施することができました。しかし、これはこれまで県ですっと行ってきたからこそ、クラブからの申込みをいただいたものと思います。

また、参加者への広報やプログラムのアドバイスなど、多岐にわたり全国事務局である日本環境協会にご協力いただき、こどもエコクラブのキャラクターである「エコまる」も来てくれました。

会場では、エコメッセに出展の企業や団体に子どもたちがインタビューをしたり、その感想をまとめた「いいね！マップ」を参加者全員で作作り、結果をエコステージで発表しました。マップに載った企業・団体は、子どもたちの心に残ったところ。こども会議終了後、そのいくつかの企業・団体にお伝えしたところ大変喜んでいただき、マップを見に来てくれていたのも印象的でした。

こども環境会議ちばに関わったすべての皆さま、どうもありがとうございます。



(文責 広田 由紀江)

環境講座 2014

「雲とお天気をつながり」開催報告

夏休み中の8月7日(木)「雲とお天気をつながり」講座を開催しました。

講座企画側としては、空を見て、雲に関心を持ち、雲はどうしてできるのか?雲を見てお天気を予想する力を養ってもらいたいと思いました。さらに、水害、竜巻等の災害を知ることもしました。開催地は、以前竜巻が発生した野田市としました。

参加者は、主に野田市の小学生の親子24名で、10時~15時の長い時間頑張ってくれました。

矢野講師は、気象庁の方で最近では、気象と災害等の講座を市町で精力的に実施されています。今回の講座は、「小学生に分かりやすく、伝えることに注意をしました!」と子どもたちが飽きないように工夫してくださいました。

午前は、湿らせたペットボトルの中で雲ができることを体感し、午後は、空気の重さを量りました。スプレー缶に空気を入れ重さを量り、水槽に入れたシリンダーにスプレー缶の空気をいれ空気の体積を量り、体積あたりの空気の重さを求めました。1m³の空気の重さは約1.2kgだそうです。空気の重さを知り、風の強さを理解した後は、くるくる棒とペットボトルで渦を作り、竜巻の中心の風の強さを実験しました。子どもたちは、実験に興味を持ち積極的に参加してくれました。

講座では、災害から身を守ることも学びました。参加者からは、竜巻注意報など、県域と広域に出るので、身近に知る方法は無いのか?との質問もありました。

矢野講師からは、竜巻の発生は急激な変化があり、ポイントを絞ることは難しい面もあるが、気象庁として努力しているとのことでした。また、講座の8月7日午後1時から、気象庁が「高解像度降水ナウキャスト」の情報がスタートするとお知らせがありました。

講座に参加してくれた子どもやご父兄が空を見て予想する機会が増えることを期待しています。

(文責 桑波田 和子)



環境講座 2014

ファシリテーター養成講座

ファシリテーター養成講座は、今年度千葉県から受託した環境講座の一つで、全5回の連続講座になっています。これまで5回のうち、3回まで終了しました。

これまでの講座は、講師に鈴木まり子さんを迎えて、「参加者の当事者意識を引き出すための必須条件」(初回)、「環境分野で活かすファシリテーションのスキルとマインド」(2回目)、「ファシリテーターが知っておきたい『伝える』ためのスキルとマインド」(3回目)をテーマとしてきました。講座は、「チェックイン」から始まり、座学だけでなく講座の体験を通してファシリテーションを学べるようになっていきます。初回の「場作り」ではスクール形式、机を長方形に並べる長方形型、多角形型、劇場型、扇形・・・などをその場で作ってみて、また同じ型でも座る位置によって、感じ方の違いなどを実感することができました。

人から教えられたり、指示されたりするだけで

は、なるほどと思っても身に付きにくいものですが、いつのまにか、講義を受ける受け身でなく、「当事者意識」をもって講座を受講することができていました。

参加者は、このあと来年の1月まで続く環境講座の中で、インターンとして環境講座のなかで体験してみることにしています。

今回は10月4日、講師に小松 敬さんを迎えて、「ファシリテーターが知っていたいリスクマネージメント」をテーマに行われます。



(文責 松橋 功)

環境講座 2014

夏休み自然環境学習「磯体験ツアー」報告

研究センター公開講座全6回講座のうち、初回を8月12日に挙行了しました。

参加者は定員を超えて家族を含め31名が参加、スタッフ7名と主催者の県側から1名が加わり総勢39名となりました。

会場となる南房総市の大房岬少年自然の家までは、JR千葉駅NTTビル前をバスで出発、行きの車内では広田スタッフの名レクにより子供たちと生き物クイズで大賑わいでした。

大房岬少年自然の家は、照葉樹の自然林に囲まれた立派な施設です。磯観察前に施設の創作室会場で講師の少年自然家所長神保清氏からスライドショーによる「海の生き物の話」について解説を受けました。その後磯体験の浜に集合、講師から観察をする場合の注意事項「生き物を持ち帰ってはいけない」こと等の話を聞き、潮だまりの中で親子が膝上まで浸かっずぶ濡れの観察会。カニや小さな生き物を沢山観察し、最後に皆が採集した生き物を集めて講師が一つつ手に取って説明して子供たちは大歓声。

磯の弁当タイムは雨に見舞われ室内に変更となったため、午後の講座は講師のスライドショーを

交え生き物の標本教材等で構成した内容で博物館のようでした。

①大房岬の位置、②黒潮の話、③クジラの生息、④海ガメの話、⑤砂浜の話、⑥貝の話、⑦海の中の話、磯の漂着物の内クジラの骨やウミガメの骨、遠く外国から流れ着いた多種類の缶類を子供たちはそれぞれ手に取って興味津々、目を輝かせて覗(ゾ)いていました。

参加者の感想「また機会があれば参加したい」と、期待に応えられた体験講座でした。

(文責 萩原 耕作)



環境講座 2014

「PM2.5を知る」

平成26年8月27日(水)13時から15時まで、千葉県環境研究センター稲毛地区で、同センター大気騒音振動研究室の内藤季和室長を講師にして行われた。

2013年1月から中国から飛来する微粒子について報道され始めた。PM2.5とは何か、通説から始まり、その概要、環境基準、測定法、現状、国及び千葉県の取り組みについて細かい説明が行われた。

「Particulate Matter \leq 2.5」は、大気中に浮遊する粒子のことで、吸引すると肺胞まで達し呼吸器系疾患等に影響を及ぼす。発生原因として直接的には自然由来の海洋、土、火山、工場、ガスコンロ、タバコ、飛行機等の燃焼、間接的には物が燃えて排出される窒素化合物、イオウ化合物、揮発性有機化合物等の物質と太陽光との化学反応から生じる。中国の大気汚染物質が日本海を越えて日本に到着し濃度が上昇している。

環境基準値は各国において異なり、我が国は年平均15、日平均 $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (2009年設定)であり、WHO設定は年平均10、日平均 $25 \mu\text{g}/\text{m}^3$ (指針値2006年設定)である。測定法は標準法とし

てフィルター法、自動測定法として β 線吸収法等が行われている。

我が国では大気汚染防止法に基づいて、都道府県で常時監視が行われている。国のPM2.5に関する総合的取り組みは、国民の安全・安心の確保、環境基準の確保、アジア地域における清浄な大気の共有等である。千葉県の取り組みは、測定局の整備、情報発信、PM2.5対策検討調査で特に高濃度の原因とその対策を検討することである。

千葉県内では政令市設置22(+5)、県設置15(+1)、国設置1(+1)計38(+7)局で測定している(+は自動車排出ガス測定局)。2013年度県内常時設置12局の観測測定結果で、日平均値の98%値は千葉真砂 $34.7 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以外は環境基準を超えている。これらの情報は千葉県のホームページ大気環境常時監視リアルタイムシステムで見ることができる。

ホームページ：

<http://www.air.taiki.pref.chiba.lg.jp/somg/top>

(文責 吉田 陸)

ダンボール工作 松が丘公民館

今年の夏休み千葉市公民館講座として、7月29日、松が丘公民館で「ダンボール工作」を小学校3年生から6年生の16人参加で行いました。講師は広田信行さん、スタッフは小倉久子さん、川島謙治の2人です。

広田講師が”資源ごみ“を分別してリサイクルすることが大切と説明をした後、ダンボール工作の開始です。何を作るかは事前には伝えず、ダンボール紙にあらかじめマークしたパーツをハサミで切り取り、手順書に従いボンドで貼り付け組み立てていきます。ひたすら作業をしていくうちに“あっ！ライオン！！”との声があちこちで上がり出し、『ライオンの小物入れ』が完成。最後に発生した切りくずを集めて終了です。

私も、小学生のときから楽しみながら環境保全の大切さを学んでもらう環境学習の原点を再確認した時間を過ごしました。

(文責 川島 謙治)



子どものエコキャンドルづくり 犢橋公民館

今年の夏休み公民館講座の第2弾として、7月31日、犢橋公民館での「エコキャンドルづくり」を行いました。毎年、犢橋公民館から講座のご依頼をいただき、今年で4回連続のエコキャンドルづくりになります。

参加者は小学校1年生から6年生の18人、今年は男の子が6名参加してくれたので、いつものエコキャンドルづくりより、にぎやかなものになりました。今回スタッフは、講師の広田由紀江さんを始めとする、桑波田和子さん、松橋 功の3人です。

広田講師から作り方を教わったあと、各グループに分かれてエコキャンドル作り開始です。持ち寄った油の色の違いで大騒ぎしながら、各自で使う色を決めて、使用済みのクレヨンを溶かしていきます。火を使うので、暑くなるだろうと、公民館で冷たい水を用意してくださいました。

油が固まるまで一生懸命うちわであおいだり、容器に付いた固まった油を拭き取ったりといったことも、大騒ぎで楽しんですることができました。

作ったあとの感想をきくと、早速うちでつかってみたいですか、きれいにできたのでうちにかざっておくとか、子供たちも楽しんでくれたようです。

(文責 松橋 功)



外来生物について正しく知ろう！ —夏休み 親子学習会—

「平成26年度千葉市地域環境保全自主活動」の一環として、8月18日に外来生物についての学習会を開催しました。夏休みの自由研究に使えるように企画したのですが、残念ながら地元の子供たちの参加は得られず、総勢9名というごんまりとした学習会になりましたが、幼稚園生、大学生から60歳代まで、それぞれが楽しく有意義な一日を過ごすことができました。

午前中は花島公園の中を花見川（花島橋）まで散策しながら自然観察を行いました。1週間前の下見の時に撮影した写真の「生きものリスト」に基づき、確認しながら歩きました。この方法では幼稚園の子供でもそれなりに観察することができて、今後の参考になりました。

当日は良いお天気だったので、日なたと木陰の違いなども感じながら、生物に詳しい人の興味深い説明を聞きながら、予定時間を大幅に延長して自然観察ができました。確認した外来種（公園内の園芸種を除く）は、シロツメクサ、セイタカアワダチソウ、ミシシッピーアカミミガメ、ナガエツルノゲイトウ、オオブタクサ、アレチウリ、セイヨウオオマルハナバチ（?）でした。

午後は、千葉県生物多様性センターの御巫（おみ）さんを講師にお招きし、「これだけは知っておきたい『外来生物』のはなし」を伺いました。

・外来生物のうち、生態系への影響度や緊急度が

高い動物26種、植物23種については、優先順位を考慮しながら対策を行っている。現在、県や市町村が駆除・防除を行っているのは、カミツキガメ、アライグマ、キョン、ナガエツルノゲイトウ、オオキンケイギクなど。

- ・身近な生きものでもアメリカザリガニ、ミドリガメ、ミシシッピーアカミミガメなどは外来種。
- ・メダカやホタルなどは日本各地で異なる遺伝子をもっているため、むやみに放流してはいけない（国内外来種）。
- ・生きものは飼う前によく考えよう！もし飼ったら、最後まで飼おう！

御巫さんは、大の生きもの好きでいらっしゃるようで、熱のこもった面白いお話が次から次に出てきて、時間がたつのも忘れて聞き入ってしまいました。本当にありがとうございました。

（文責 小倉 久子）



印旛沼の再生への道（雑感）

私は東京都から千葉市に移り住み以来30余年間、全国ワースト上位にある印旛沼の水を飲み続けてきた。

この水がおいしくなれば、流域の市民生活の質が飛躍的に向上するはずなのに、ただ、「百年河清」を待たざるを得ないのも、やるせない話だ。

市民は、自分の税金を払ってから水道水を飲むまでの間はブラックボックスだから、口出しは難しい。また、水ガメ化した印旛沼の自然を再生すべく市民参加型の水循環健全化会議が設立されて13年がたつが、これも水ガメが巨大過ぎて無力を感じる。

では、一般市民はどうしたらよいか。ブラックボックス部分は専門家に任せざるを得ないが、水ガメを自然の池に再生する部分では、もっと参加の道はありそうに思える。

その参加の道は、汚濁物質の削減、湧水の増加など物理的対策と、自分の命を支える水源をもつ

と大切にする意識の問題への対処とがある。

日本人は古来より、水源には神が宿るとして水神様などを信仰してきた。印旛沼にも大昔から江戸時代頃までは神がいた。それが有名な竜神伝説（龍腹寺、龍角寺など）であり、「利根川図誌」に描かれた世界だ。

今や時代が移り、それらの神は、テクノロジーに座を追われ利根川の奥地まで追いやられたかのごとくである。しかし、テクノロジーは手段でしかなく主役は人間だ。とは言え、人間は万能ではない。

これからの再生への道の一つとして、水源を大切にすることも含めて、人の意識の問題に立ち入ることも必要だと思われる。それにはまず、より多くの人が印旛沼に愛着を持てるように、印旛沼の自然・歴史・文化を学習することから始めたい。

（文責 牧内 弘明）

環境講座 2014 11月の講座案内

施設見学バスツアー「千葉県産の天然ガスとエコライフ」のご案内

千葉県研究センター公開講座の中のバスツアー講座第2弾が11月19日(水)に行われます。

この講座は、千葉県の資源でもある天然ガスの活用と資源保護のバランスを知るため、日本で最も歴史ある天然ガス事業会社「関東天然ガス開発株式会社」のガス採集から供給までの現地視察及び天然ガス噴出現場を視察することが一つ、もう一つは自然エネルギーを取り入れエコな暮らしを実践されている個人のお宅を視察するという2本立ての内容です。

JR千葉駅NTTビル前からAM9:00バスで出発、茂原市の「関東天然瓦斯(株)」を訪問し、天然

ガス採取の他、副産物の研究開発について学んだあと、山武市へバス移動、エコな生活体験を体験されている「小関光二」氏宅を視察、自然エネルギーの活用についてお話と現場説明を受けます。小関氏は、環境カウンセラーであり元千葉県環境部技術職員として勤務。「我が家の環境大臣」で2006年環境大臣優秀賞受賞されています。

徳川時代からある立派な庭木を見ながら小関宅でお弁当タイムです。

皆さん、参加お待ちしております。

(文責 荻原 耕作)

環境講座 2014 11月の講座案内

世界と日本の水事情から持続的な水利用のありかた

日程：11月16日(土) 13時半～15時半

会場：サンランドホテル船橋

講師：橋本 淳司 氏 (水ジャーナリスト/アクアコミュニケーター/アクアスフィア代表)

「地下水が危ない」をはじめとする多数の著書やメディア出演で活躍中の橋本氏を招いて、千葉県民環境講座で行います。

講座要旨 (講師橋本氏より)

わたしたちは毎日水を飲み、水をつかって生活しています。料理、洗濯、お風呂、そしてトイレを流すのにも水が必要です。企業のあらゆる商品にも水が必要です。たとえばハンバーガー1つには、どれくらいの水がつかわれているでしょう。あなたがハンバーガーを調理するときには、水はつかわないでしょう。パンズに、レタス、トマト、牛肉、タマネギ、ピクルスなどをはさめばできあがりです。でも、パンズをつくるには小麦を育てなくてなりません。レタス、トマト、タマネギを育てるにも水は必要です。

とくに牛を育てるにはたくさんの水をつかいます。牛が水を飲む以外に、飼料を育てるときに水をつかうからです。



このように考えると、ハンバーガー1個をつくるのに、2400リットルの水が必要になります。私たちは現在、地球が提供してくれる1年分の水を約8か月で使ってしまいます。1年分を8月下旬には使い果たしてしまい、そこから12月末までは、本当は手をつけてはいけない未来の水です。1961年の時点では、地球が1年間に提供可能な自然資源のうち、人間が使っていたのは3分の2でした。しかし、人口増加とさまざまな資源への需要が急増し、1970年代初めには、地球の提供量を超える自然資源を使うようになってしまいました。人間の地球への依存はさらに増え続け、今世紀半ばには、地球2個分になると言われています。これでは地球がもちません。

私たちの営み、生産活動を、せめて地球1個分に縮小しなくてはなりません。本講座では世界と日本の水事情、持続可能な水の利用について考えていきます。

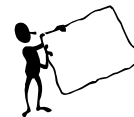
(文責 広田 由紀江)



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 23 —

おききました！ この人・この団体

千葉大学環境ISO学生委員会



「千葉大学環境ISO学生委員会とは」

千葉大学環境ISO学生委員会 委員長 植草太郎

千葉大学では、2003年10月からISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステム(EMS)の構築に取り組み、現在では全キャンパスでEMSを運用しています。また、2013年には全キャンパスでエネルギーマネジメントシステム(EnMS)に関する国際規格であるISO50001を取得いたしました。その中で、主体的にEMS・EnMSの運用・構築に取り組んでいるのが私たち千葉大学環境ISO学生委員会（以下、学生委員会）です。「基礎研修」「内部監査」「外部審査」といったEMS・EnMSの運用に大きく関わります。また、地域社会への更なる貢献、学生の実務経験の拡充を目的として、2009年からNPO法人格を取得し、理事長以下全ての役員を学生が努めています。

2014年6月現在、学生委員会には合計で187名の学生がおり、「西千葉・亥鼻地区学生委員会」及び「松戸・柏の葉地区学生委員会」に分かれて活動をしています。西千葉・亥鼻地区の特色は活動範囲の広さ、活動規模の大きさにあります。環境教育という観点からは、附属学校における環境教育や千葉大学における環境関連授業の調査を行っています。省エネルギー・省資源の観点からは、エネルギーや紙資源、ごみなどの日常における削減活動をはじめ、省エネ・省資源イベントの実施なども行っていま

す。また、構内の景観管理にも意欲的に取り組み、緑のカーテンの設置、落ち葉の堆肥化活動などを行っています。また、学内の他団体や構内事業者との連携にも力を入れており、大学祭における環境対策や、生協との協働で環境配慮製品の値引き販売を行ったりしています。

松戸・柏の葉地区の大きな特色が、委員会のメンバーが園芸学部生で構成されていることです。日本で唯一の園芸学部として、生物や環境についての専門的な知識や技術を活かし、学内のみならず地域社会にも開かれた活動を行っています。主な活動としては、宮城県石巻市雄勝町で行われている「被災地緑化活動」、大学構内に季節の花を植えた鉢を設置し管理する「一人一鉢緑化企画」、夏休みに地域の子どもたちを対象に実施する「昆虫教室」、地域住民の方々と協力して作り上げる「戸定みんなの庭」などがあります。

その他にも、「エコライフフェア」「エコメッセージinちば」「エコプロダクツ」「サステナブルキャンパス推進協議会」「全国環境ISO学生大会」等にも参加をし、千葉大学のEMS・EnMSを運用するだけではなく、地域社会への貢献も大きな目的として活動をしています。

【お問い合わせ先】

千葉大学環境ISO学生委員会
(担当) 植草太郎

TEL:080-4732-6577

E-mail:info@chiba-univ.net

HP:

<http://env.chiba-univ.net/>

Twitter:@chibaiso



西千葉地区省エネ・省資源イベントの様子(2014年)



サステナブルキャンパス推進協議会での発表の様子

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

8月運営委員会

日時 8月8日(金) 18:00~20:55
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境講座開催
 - ・江戸前アサリ「わくわく調査」 7/26
 - ・雲とお天気をつながり 8/7
- ・エコメッセ運営委員会 8/7
- ・印旛沼流域圏交流会 7/21
- ・千葉市公民館講座 犢橋 7/31 松が丘 7/29

【協議】

- ・だより 99号
- ・環境学習活動
- ・印旛沼をきれいにする活動
- ・印旛沼流域環境体験フェア出展
- ・エコサロン
- ・エコメッセちばプロジェクト
- ・その他

9月運営委員会

日時 9月11日(木) 18:00~20:55
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境講座開催
 - ・ファシリテーター養成講座 8/9・10・30
 - ・磯体験ツアー 8/12
 - ・PM2.5を知る 8/27
- ・印旛沼をきれいにする活動 8/18
- ・エコメッセ出展者説明会 8/22

【協議】

- ・だより 99号
- ・千葉県環境講座
- ・桑納川ナガエツルノゲイ生態学習会 10/8
- ・印旛沼流域環境体験フェア 10/25・26
- ・エコサロン 10月は開催しない
- ・エコメッセちば
- ・Eポート千葉大会

お知らせ

第12回 印旛沼流域環境・体験フェア

日時 10月25日(土) 11時~15時
10月26日(日) 10時~14時
(両日とも荒天中止)

場所 佐倉ふるさと広場向かい
主催 千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議
共催 印旛沼水質保全協議会
内容 カヌーデモンストレーション、農業車両・作業機の
展示・乗車体験、農産物・農産物加工品の販売、
NPO/各団体ブース、飲食物の販売、ステージ
イベント
10/25のみ: 屋形船環境学習、市町ブース出展、
流域キャラクター撮影会

第4回 Eポート千葉大会

開催日 10月18日(土) 8:30受付開始
※雨天決行(プログラムの変更有り)
募集数 40チーム(一般 ファミリーの部)
参加費 1チーム 5,000円
会場 フェスティバルウォーク蘇我特設会場

- 参加チーム募集中!
- コスプレ賞もご用意してます!
- 当日はキッチンカーの出店や農産物の販売もあります!

【お問合せ】

Eポート千葉大会
ーハーバーシティ蘇我ー実行委員会
印旛沼探検隊内(担当: 大場 オオバ)
TEL & FAX: 043-486-5003
e-mail: inbanumatankentai@yahoo.co.jp

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: (一財) 千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL: 043-246-2180 FAX 043-246-6969
Eメール: info@kanpachiba.com
会費納入先: 環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000円 団体 2,000円 賛助会員 5,000円		